2014年 オーストラリア遠征報告書

1. 遠征者

白崎孝紀(同志社大 OB・スタッフ) 新村 穣(法政大・選手)

2. 滞在先

オーストラリア メルボルン/ベンディゴ

3. 日程

day			AM		PM		新村
2/27	木	10:30	Narita/Kuala Lumpur MH 89	17:05 19:50	Kuala Lumpur/Melbourne MH 147	0	0
2/28	金	6:45	Melbourne着	19:30		0	0
3/1	±			14:30	116th Austral Wheelrace Carnival (TR) @Darebin International Sports Centre velodrome	0	0
3/2	日	10:30	Criterium (RR /A Grade) http://www.skcc.com.au/racing/summer-crits (60min)			0	0
3/3	月			15:00	The University of Melbourne WT	0	0
3/4	火	9:00	Monash University WT	18:30	CCCC Sandown Twilight Crits (RR) (60min) @Sandown Racecourse, http://www.carnegiecycling.com.au/	0	0
3/5	水			中止	CCCC-50k-Points-Race (TR) @Packer Park , http://www.carnegiecycling.com.au/	0	0
3/6	木		Bendigoへ移動		Bendigo Club Track Race @Tom Flood Sports Center http://www.madison.org.au/	0	0
3/7	金				Bendigo Criterium (RR) @Rosalind Park, Williamson Street, Bendigo	0	0
3/8	±				Bendigo Madison (TR) d1 @Tom Flood Sports Center http://www.madison.org.au/	0	0
3/9	日				Bendigo Madison (TR) d2 @Tom Flood Sports Center http://www.madison.org.au/	0	0
3/10	月	8:55	Melbourne/Kuala Lumpur MH 146	14:15 23:25	Kuala Lumpur/Narita MH88	0	1
3/11	火	7:15	Narita着			0	1
3/16	日						0
3/17	月	8:55	Melbourne/Kuala Lumpur MH 146	14:15 23:35	Kuala Lumpur/Narita MH88		0
3/18	火	7:15	Narita着	25.00			0

4. レポート

Saturday February 28th,2014 (Day1)

@Melbourne

成田空港からクアラルンプールを経て早朝にメルボルン到着。

空港で予約をしていたレンタカーを借り、メルボルン市内を経由して宿泊予定のモーテルへ。レンタカー移動にモーテル泊が今回の遠征では基本となる。

宿に荷物をおろし買い物へ。食事はパンに鶏肉やハム、野菜を挟んだものがメイン。オーストラリアは物価が高く、食事のパターンも少ないので苦労したが、滞在後半につれて改善されていった。

買い物とトレーニングを終え、夜はオーストラリアのスポーツカルチャーを学ぶというテーマのもと、本場のラグビーを見に AAMI Park へ。良いスタジアムと質の高いプレーはピッチを狭く感じさせる。これはスタジアムスポーツにおいて大きな価値であると感じた。

Saturday March 1st, 2014 (Day2)

116TH AUSTRAL WHEELRACE CARNIVAL

@DAREBIN INTERNATIONAL SPORTS CENTER (The Joe Ciavola velodrome)

http://vic.cycling.org.au/Track/Events/ArtMID/4354/ArticleID/5132/116th-Austral-Wheelrace-Carnival

■結果

Keirin -予選落ち 5kmScratch -9位 Heart Starter(Scratch) -8位 Austral -1位 15kmScratch -12位

メルボルンに滞在して二日目。この日は現地での初レースにエントリーしていたので、宿泊先から車で20分ほど走った場所にある会場に移動する。エントリーしていたのは15時からと18時からの2セッションで、予選決勝を含めた6レースを走ることが出来た。



スクラッチのスタート前。集合場所にも注意が必要。

会場のバンクは国際規格の屋内250m 走路で、日本の伊豆ベロドロームと比較すると走路の高低差が2m ほど低く、カントがやや緩い。最初に行われたケイリンではこれに苦戦してしまい予選落ち。



オーストノルア選のスタート。ホルターは主力で押す

時にインタビューがはいるなどすごいことに。

今回優勝することが出来たメインレースである Austral について。レース形態はいわゆるハンディキャップレース。その選手の力量を主催者が判断し0~250m 前の位置からスタンディングスタートをして決められた距離(今回は8周回)を競うレースである。

前後の選手と協力して、一番ハンディのある選手に追いつき、抜かさなければならないのだが、合流できるタイミングや集団のポジションなどの要素が勝敗を分ける。

Austral は世界最古のトラックレースといわれる歴史あるレースで、優勝すると同

最後に行われたスクラッチレースでは、過密なスケジュールによる集中力の低下もあったが、レースの終盤に踏んでいける足が残っておらず、スタミナ不足が露呈し順位に影響してしまった。

しかし、世界選手権やワールドカップで活躍する選手と同じレースを走ることはテクニック・ポジショニングの観点などで得られるものが多く、今後のレースに向けてとても参考になった。

また、オーストラリアのレースは様々な年代の選手が同時に周回走行しても、ペースに落ち込みがほとんど見られない。全体的なアベレージスピードの高さや扱えるギヤ倍数が違いにおいて、日本国内とのレベル差を感じた。

Sunday March 2nd,2014 (Day3)

Summer Crits [C GRADE]

@Melbourne

http://www.skcc.com.au/racing/summer-crits

■概要:1周 約1km 1時間 (2つのレースが時差発走)

■結果:4位

SKCC という団体が毎週日曜実施しているクリテリウム。かなりゆるい運営の草レースで、当日エントリーで出場。現地の受付でレースに出場したいことを伝えアンケートを書く。エントリーフィーは20豪ドルで、レースはグレードが上から A~E まで。

新村選手は A グレードでアンケートへ記入。したがクリテリウム出場回数に目をつけられ C グレードにさせられる。必死に説得を試みるが A 出場は認められず。



スタート/フィニッシュ地点。

昨日のオーストラル・ウィールレース優勝者である"Minori SHIMMURA"は1日にして有名人となっており、自転車ファンのご老人や若者から握手を求められる。そんな中、「チャンピオンが C グレードはおかしい」という話になり、審判長と交渉していただいた。しかし、残念ながら変更出来ず。

レースは A と C が同時出走。C グレードでもペースは決して遅くないが、A グレードはそれを何度もレース中に追い抜く。レースの管理は自転車に乗った審判員。一緒に集団内を走りコントロール。それなりの脚力がないとこの審判は務まらない。

レースは2人が逃げ切り、新村選手は集団の2番手で4位。惜しくも賞金獲得ならず。



最低限の人員と看板で運営。シンプル。



会場は倉庫街。脇に見える HOLDEN はオーストラリアの自動車メーカー。

Monday March 3rd,2014 (DAY 4)

■トレーニング→Melbourne 大学

この日にはレースがないため、午前中にトレーニングとしてロードワークを行うことにした。朝8時に宿泊先である Greensborough を出発し、Kinglake までを往復。走行距離はおよそ75km。



登りが続いて Kinglake に到着。湖はなかった。

Highway を15分ほど走ると、交通量の少ない農村部に。オーストラリアは平らな道をイメージしていたが、今回のルートでは郊外でもアップダウンが多く驚いた。

想定外なことは続き、Kinglike まで10km 辺りから山道へと突入。折角なので、乗車フォームを意識しながら頂上まで向かってみることに。後から聞いた話では、この登りは有名な練習コースらしく、平日にもかかわらず数名のサイクリストともすれ違った。

午後は JISS の白崎さん(弟)の仕事である、風洞実験装置の見学に同行可能ということで、市内にあるメルボルン大学に向かった。風洞実験装置を見るのは初めてだったので残念ながら日本との比較などは出来ないが、大学教授のお話を聞くことでエアロダイナミクスがいかに重要なことであるかなど、理解を深めることが出来た。



神宮外苑クリテで来ていた Peter と John にも会うことが出来た。



メルボルン大学。The 大学な景観。

Tuesday March 4th,2014 (Day5)

■Monash 大学→Sundown Racecouse

平日である本日は夕方からレース。

午前はモナシュ大学で昨日に続き風洞施設の見学。5メートル級の送風機が2基という大変大きなもので、ツール・ド・フランスの覇者であるカデル・エヴァンスも使用した施設だそうだ。



途中通ったアルバートパーク・サーキット。 F1の準備中。

Sandown Twilight Crits

■概要:1周3.1km 18:30~ 1時間

■結果:15位前後

http://www.carnegiecycling.com.au/

Carnegie Caulfield Cycling Club が夏場の毎週火曜夕方に実施している、自動車サーキットを利用したロードレース。グレードは A~E。

1時間前になってやっと主催者が到着。当日エントリーをどんどんさばいてく。あっという間に300人くらい集まってレーススタート。

コンチネンタルチーム(DRAPAC、Avanti、OCBC など)の選手や地元強化選手などハイレベルなメンバー構成。練習レースということもあってか、全員ガンガン引く。ホームストレートのスピードは自分がこれまで見たロードレースで1番速いと感じた。

レースは中盤にできた10名ほどの逃げが、そのまま最後まで逃げ切り Team Budget Forklifts の選手が優勝。新村選手はメイン集団前方でゴール。



クラス毎の周回板でレース管理。フィニッシュは iPad で撮影。アットホームな雰囲気。



レースの様子。サーキットの内側は競馬場。

Wednessday March 5th ,2014 (Day6) @Melbourne

落雷が予想される天候と昨日までの疲労回復の為、本日は市内を観光することとなった。 最終的に、天気は終日曇り。 時々霧雨が降る程度であった。

レンタカーを近郊の駐車場に停め、市内での移動は電車とトラム(路面電車)を利用。現地の生活をなるべく近く感じられるようにした。トラム中心の交通網は日本では多くない。終日かなりの本数が運行されていることから、ビジネスマンをはじめ多くの人々に利用されていた。また、公共交通機関を利用するには Myki という電子チケットが必要であるが、この利用方法を理解するのが難しかった。



メルボルン市街地。道の真ん中にトラムが走っている。



Flinders Street Station.日本人観光客も見受けられた。

ショッピングも行ったが、印象に残っているのは、メルボルン・クリケット・グラウンドの中に併設されていたナショナルスポーツミュージアムである。

中には、歴代のオリンピックにおける功績やメダルが展示されており、オーストラリアのスポーツの歴 史の中に、自転車がしっかりと理解されていることがわかった。



エヴァンスの使用していたバイクも展示されている。



子どもたちがスポーツを体験できるコーナー。

Thursday March 6th ,2014 (Day7) Melbourne→Bendigo

メルボルン最終日。世界一高い高層住宅というユーレカタワーに寄ってから、車で大地しか見えない 道を走りベンディゴへ。

Bendigo Club Track Race

@Tom Flood Sports Centre

■結果

Men's A Grade Scratch Race 1 順位不明 Men's A Grade Scratch Race 2 順位不明 Frank McCaig Memorial Wheelrace (Handicap) 2位

ベンディゴへは午後に到着。買い物をした後、 ベンディゴクラブトラックレースへ出場。当日エントリー。

バンクはほぼ平なバンク。1 周約400m でまんじゅう型のバンクはおまけ程度についた緩いカントが特徴。 子どもたちには走りやすそうである。

ここでは幼稚園児くらいの子どももピスト乗って レースに出場していた。補助輪を外せるか否かと いう年齢からトラックレースというのは本当にすご

L10



子どものハンデキャップレース。先頭を走っている子は 幼稚園児くらいの年齢。

この日のメインは Frank McCaig Memorial Wheelrace という、クラブレベルながら歴史あるレース。 新村選手はこの日も好調で、チームスプリントで世界チャンピオンにもなっている Scott SUNDERLAND 選手の追撃を抑えての2位。

レース後はちょっとしたレセプションに呼ばれて出席。オーストラリアのナショナルコーチと話もでき 非常に有意義な時間を過ごせた。



バンクの平たさがうかがえる写真。写真はスクラッチ。



この日優勝したロイ・ペーテルス選手(NED)。 3日後、メインレースのベンディゴマディソンも制する。

Friday March 7th ,2014 (Day8)

Bendigo International Madison Criterium

@Bendigo CBD Circuit

■概要:1.2km×30周(約36km)

■結果:DNF

この日は午前中にベンディゴの街を観光し、夕 方からはベンディゴインターナショナルマディソン のクリテリウムに参加した。

ベンディゴは昨日まで滞在していたメルボルンよりもかなり小さな街で、数時間で街全体を見て回ることができた。 道路には、自転車専用レーンがある場所も多く、交通量も少ないためトレーニングを行うにはこちらの方が適している。





そして、夕方から始まるクリテリウムレース。ベンディゴの中心街に特設コースを作り、そこを30周。結果は10周も走らせてもらえずリタイア。今回の遠征で完走できなかった唯一のレースとなり、大きな後悔が残った。

敗因はスタートから第一コーナーまでのポジションでレースがほぼ終わってしまったこと。その後に前に上がるのは、コースが狭く困難であったが完全に油断していた。また、他の選手に比べコーナリングが遅いのも認識。技術面でも改善する必要があると感じられた。

遠征も終盤にさしかかり、メインのベンディゴマディソンにエントリーする選手たちがこのクリテリウムにも参加している。全体のスピードが上がり、自分の力が足りていないことを痛感する内容であった。



コースの半分は公園の散策路。非常に狭い。



表彰式。優勝したブレントン・ジョーンズ選手はこの後、ツァー・オブ・ジャパンでも活躍。

Saturday March 8th, 2014 (Day9)

Bendigo International Madison (1)

@Tom Flood Sports Centre

■結果

Gold and Opal Wheelrace Heat 4 (2000m Handicap) 8位 予選落ち Golden Mile Wheelrace Heat 6 (1600m Handicap) 6位 予選落ち Aces 5 Mile Scratch (20Laps) 19位

いよいよ本遠征のメインインベントであるベン ディゴインターナショナルマディソン。

本日は1日目、女子マディソンがメイン。他、レースに冠名がついたハンデキャップとスクラッチを中心にイベントが組まれている。毎回が賞金レース。

そして面白いのが陸上競技のイベントも同時に行われていること。内側の芝生にコースを作り短中距離のレースを合間にやっていた。もちろんこちらもハンデキャップレースある。



陸上のハンデキャップレース。これも日本では見たことが ない面白いイベント。

メンバーもオリンピアンや世界チャンピオンなどタイトルホルダーばかり。

この日最も印象に残ったのが過去ワールドカップのオムニアムで総合優勝している Shane Archbold 選手(NZ)。ハンデキャップでは前半から全力で回しながら、最後はケイリン級のトップスピードでスプリント。今日だけで2勝。

新村選手はハンデキャップレースでは勝負しきれず2レースとも予選落ち。最後のスクラッチでは個人追抜の世界チャンピオンや6日間レースの常連選手と逃げるなど、積極的で良い走りを見せた。



電光掲示板はクレーンで設置。



文:白崎

Sunday March 9th ,2014 (Day10)

Bendigo International Madison (2)

@Tom Flood Sports Centre

■結果

A Grade Scratch (10Laps) DNS 1000m Wheelrace Handicap Heat 4 5位 予選落ち

A Grade Scratch (12Laps) 1位 Invitation Derby (2Laps) 4位 Invitation Keirin Heat 1 5位 予選落ち

ベンディゴインターナショナルマディソン最終日。この日は、スクラッチレース×2、ハンデキャップに加えケイリンとスプリント。

気温が高いせいか、併催されている陸上競技が後回しになり、早まったスクラッチのスタートまでに機材を準備することが出来ず。

4人で走るスプリントでは、自分から積極的に



先行を試みたが、先頭までは到達できず、ギヤ比の違いもあり着いていくこともままならない結果に。 やはりオーストラリアの選手はダッシュ力とパワーがあり、スプリントやケイリン等の種目では自分が勝てるパターンを見つけることが出来なかった。

切り替えて、もう一つのスクラッチではイメージ通りの走りで優勝。



メインレースを前に客席は満員!

最後にメインのベンディゴマディソンを観戦。言葉で表現するのが難しいほどの感動を覚え、今までに見たことの無いレベルでの走りは、多くの観客を盛り上げ、そして自分にもより高い目標を与えてくれた。

今回の遠征では数多くの知識や経験が得られた。しかし、より英語が話せていたら、選手に直接お話しできる機会も増えていたかもしれない。



レース前、子どもとハイタッチ。



マディソンを走る選手たち。

5. 総括

① レースについて

今回は9日間で7大会に出場。ビッグイベントに合わせたため密度も高かった。

ヴィクトリア州車連(Cycling Victoria)によって月に2~4大会。それに加えクラブによって定期的に 実施されている草レースも多い。

運営についてはシンプルで情報が少ない為一見大雑把に感じるが、決まった流れで運営されている。システマティックであると同時に、数をこなすことで経験を積んでいると思われる。

② オーストラリアの選手について

所感を下記に示す。

- ・スピードがある。ペースの上下は少なく、常に速い。近年はあらゆるレースでこの傾向にあると思う。
- ・ホビー選手含めて層が厚い。レース経験が豊富。
- 無理なレースはしない。
- →これらの理由から、落車は非常に少ない。(落車は遠征中で1回だけであった) 落車をしないことは選手・運営ともに大変重要。

③ マディソンについて

ベンディゴマディソンは、スポーツにとって重要である競技(競技の特性・レベルの高さ)、イベント (演出)、観客(盛り上がり、一体感)という3点において大変優れていた。私感ではあるが、過去に観 戦してきた様々なスポーツの中でも、ベストなスポーツイベントの一つであった。

○今後:日本でのマディソン種目実施

まずは全日本選手権において実施し、選手権以外のイベント性が強いマディソンの実施を目指す。 →2014年4月の全日本選手権にてマディソンを実施(2011年以来)。

④ ハンデキャップレースについて。

オーストラリアで盛んなハンデキャップレースは、「ハンディキャップス」という正式な種目である。これは特に若い選手の練習レースとして大変優れていると感じた。理由は下記の通り。

- ・脚力や種目の専門に関係なく、あらゆる選手に勝つチャンスがある。
- 集団走行における牽制が発生しにくい。
- ・スタンディングのダッシュ、ハイスピードの維持、集団走行技術、先頭交代技術、スプリント力など、 トラック競技において必要な要素が詰め込まれている。
- ◎今後:選手権大会での実施は難しいが、地方車連・学連や地域のレースなどに普及を促す。

⑤ 全体を通じて(白崎)

ベンディゴマディソンのような田舎のビッグイベントや街角で行われている草レースが多く根付いていることで、オーストラリアは選手や指導者はもちろん、主催者やスタッフ、審判も高い質を保っていると感じた。大げさに言えば「ベンディゴマディソンがあるからオーストラリアは世界選手権の団体追抜で優勝できる」のである。

日本には幸いにして、競輪場や整備された道路が多く存在する。これらを今後、より活かせるような活動につなげていく予定である。

⑥ 全体を通じて(新村)

強化選手を除く多くの学生が、海外でレースをする機会がない。このような遠征は強化選手になった際も結果に役立てられるはずで、とても良い経験になると思う。特に現地での飲食(自炊・外食問わず)や生活、言語に順応することの重要さを当然のことながら改めて認識することができた。

また、今回の遠征は白崎さんが運転からレースのサポートまでを行っていただけたので、試合に集中することが出来た。レースでの画像や動画も撮影していただけたので、毎晩のミーティングで即時振り替えることができ、改善点を次のレースへ繋げることができた。

⑦ 終わりに

本遠征において事前アドバイスやホームステイ先の紹介等、明治大学 OB の吉井功治さんには 大変お世話になりました。ありがとうございました。